

平成30年度 第1回秋田市廃棄物減量等推進審議会議事録(概要)

- 1 開催日時 平成30年11月6日(火) 午後1時30分から
- 2 会場 秋田市庁舎 5階第2委員会室
- 3 出席者
  - (1) 委員 柴山敦会長、西川竜二委員、古井大樹委員、伊澤整委員、石郷岡誠委員、佐々木文勝委員、橋野茂子委員、菅原フサ子委員、北村知子委員、川越政美委員、天野裕壽委員、齊藤千哲委員、平澤富美子委員  
(14人中13人出席)
  - (2) 事務局 嶋環境部長、三浦環境都市推進課長ほか8名
- 4 議事概要 以下のとおり

発言者	発言要旨
会長	次第4の(1)秋田市一般廃棄物処理基本計画の進行管理についてのア、平成29年度ごみ排出量および目標達成状況について事務局の説明を求める。
事務局	(資料1-1について説明)
会長	只今の説明に対し、質問など無いか。
委員	事業系ごみの排出量が増加した要因として、昨年の水害に伴う災害廃棄物の発生等という説明があったが、近年の異常気象等からも、今後も災害廃棄物の発生は十分考えられる。 ごみ減量目標を日常的に発生するごみの減量と考えた場合、今後は、減量目標と比較する際の実績値から、災害廃棄物等の特殊要因を除くことを検討すべきと考えるがどうか。
事務局	次年度以降の資料作成の際は、災害廃棄物発生等の特殊要因を除いた数値も示せるよう工夫したい。 また、基本計画を見直す際は、減量目標から災害廃棄物等の特殊要因により発生する廃棄物を除くことについても、検討したいと考えている。
委員	基本計画の目標を設定する際、将来人口を推計し、排出状況等を算出していると思われるが、これまでの人口の実績値は推計と比較し、どうなっているか。
事務局	おおむね推計値のとおり推移している。

委員	<p>水銀含有ごみを28年度から分別収集しているが、27年度以前は、家庭ごみに含まれていたのか。</p> <p>また、今後、新たに分別収集を検討している資源化物等はあるのか。</p>
事務局	<p>水銀含有ごみは、分別前は家庭ごみとして収集していた。</p> <p>また、現段階では、新たに分別収集を検討している資源化物等はない。</p>
会長	<p>次に、次第2の(1)のイ、目標達成に向けた個別施策の実施状況について事務局の説明を求める。</p>
事務局	<p>(資料1-2について説明)</p>
柴山会長	<p>只今の説明に対し、意見、質問など無いか。</p>
委員	<p>スマートあきたプラン1の個別施策3のグリーン購入の推進において、制服・作業服の購入において、目標未達成となっているが、要因は何か</p>
事務局	<p>たとえば、消防関係の制服等は、特注の制服等となり、グリーン購入対象外となるものがあること、また、昨年、防災関連の被服等を大量購入したが、それが対象外だったことが要因と考えられる。</p>
委員	<p>プラン2の個別施策3で、市は、生ごみ等を活用したバイオガス発電等を調査研究するとしているが、プラン1の個別施策7で、現在、生ごみを再生活用している民間のバイオガス発電所においては、生ごみの受入量が少ない状況となっている。</p> <p>生ごみが集まりにくい状況の中で、市がバイオガス発電の導入を調査研究する理由は何か。</p>
事務局	<p>プラン2の生ごみは、家庭から排出される生ごみで、プラン1の生ごみは、事業所から排出される生ごみである。</p> <p>事業所からの生ごみの受入が少ないのは、当該事業が29年度途中から始まったことや、生ごみを排出する事業所への周知が行き届かなかつたためと思われるが、現在は、受入量も徐々に増えているという話を聞いている。</p> <p>一方、家庭からの生ごみは、相当な量の排出が予想され、バイオガス発電施設も大規模なものとなることや、生ごみの分別という市民負担や衛生管理が課題となることから、先進自治体を調査研究することとしている。</p>

委員	<p>プラン1の個別施策3のグリーン購入の推進には、学校の制服等の古着回収も含まれるのか。</p>
事務局	<p>秋田市役所の職員が着用する事務服等を購入する際、環境配慮物品を購入するものであり、ここには、制服等の古着回収は含まれない。</p>
委員	<p>プラン2の総合環境センターの施設整備については、これまで、計画どおり、大規模修繕や改修等が行われているのか。</p> <p>また、今年度策定予定としている施設毎の整備計画は、施設の疲労状況等に応じた計画なのか、施設の耐用年数に基づく計画なのか</p>
事務局	<p>各施設の整備については、基本計画にも定めており、おおむね計画どおり実施されている。</p> <p>この整備計画は、施設の耐用年数に基づいた定期的な大規模修繕等の計画であるが、今年度策定予定の個別施設計画は、各施設の疲労状況も含めた施設の延命化等を目的とした計画となる予定であり、年度毎の施設整備に要する費用等も記載する予定である。</p>
委員	<p>プラン2の個別施策2に刈草が多量に施設に搬入された際は、燃焼効率向上のため一次仮置き後、熔融処理されているようだが、プラン3の個別施策2で実施している生ごみの堆肥づくりのように、搬入された刈草も堆肥化できれば、二酸化炭素が削減されると思われるが、この二つの関連性はどうなっているか。</p>
事務局	<p>生ごみの堆肥づくり講座は、家庭で発生する調理くず等をコンポスターを活用し堆肥化するもので、熔融施設に多量に搬入される刈草とは直接関連するものではない。</p> <p>搬入される刈草も堆肥化できれば環境的には大変良いことであるが、新たに堆肥化施設が必要となるほか、刈草の搬入時期に偏りがあることや堆肥の活用先が少ないことなどから、刈草の堆肥化は難しいものと考えている。</p>
委員	<p>プラン1の個別施策2にあるオールあきた水切り月間は8月としているが、夏場であり臭いが発生しやすい時期であるため、不適切な時期なのではないか。</p>

事務局	<p>家庭ごみに含まれる水分が大変多いことから、例年、家庭ごみ排出量が最大となる8月をオールあきた水切り月間として、集中的に水切りの周知を行っているものである。</p> <p>水切りすることで臭いの発生が抑えられることや、水切りの効果を体験してもらうことにより、水切りに対する理解が広がっていることから、今後も市民の協力を得ながら、継続していきたいと考えている。</p>
会長	<p>次に、次第2の(2)の家庭系ごみの有料化制度に係る評価への対応状況について事務局の説明を求める。</p>
事務局	<p>(資料1-2について説明)</p>
会長	<p>只今の説明に対し、意見、質問など無いか。</p>
委員	<p>機密文書、レシート、写真など資源化できない紙類について、市民の理解が進んでいないと思われる。</p> <p>ごみの分け方・出し方手引きにおいて、もう少し表記の仕方を工夫すべきではないか。</p>
事務局	<p>今年度全戸配布予定のごみの分け方・出し方手引きにおいて、表記方法の工夫に努める。</p>